

第5回教育課程企画特別部会の発言追加

東京大学大学院教育学研究科准教授 植阪 友理

もう1点、追加したい点があります。神野先生のご発言とも重なりますが、小さい頃に強い興味関心を抱き、ものすごい記憶力を発揮する子供がいます。発達心理学でもそうした研究が一部ありますが、例えば電車、昆虫、そして恐竜などに記憶の構造的にも素晴らしいものをもつ子供が存在することが知られています。一方で、それがそれを一生涯の糧とするほどにそれが好きなのか、通常のエデュケーションを無視してまで深めるべきなのかを考えることはむずかしいことです。小さい頃の関心に加えて、幅広く学ぶことで将来的な本当の関心の芽がさらに広がるかもしれません。

早期にこの課程に認定することは、かなり注意しないといけないかもしれません。逆にいえば、標準授業字数が1015にしっかりと収まっていけば、自分のやりたいことをやる時間も生まれます（例えば、水曜日の午後など！）。そういう形で巻き取っていくことが可能なのか、それとも本当に認定する必要があるのか、そのあたりの見極めも随分配慮しないといけないのかなと思っています。

また、もし本日の会議のように、通常のエデュケーションにおいても、きちんと高いレベルのことを学ぶことができたなら、例えば、円周率を学ぶ時に、3.14ということだけではなく、実際に測ってみると誤差も生じるといったような学習ができたとしたら、それはその子が探究的な学びをしていく際にもメリットがあります。

通常のエデュケーションの有り様そのものに手をつけず、特別なものだけを認めていこうとするのは、なかなか厳しいと思います。ぜひ表裏一体の議論としてご検討ください。